

虐待対応状況

●障害者虐待 8件

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
訪問サービス事業者	訪問サービス事業者	身体的 心理的	対象者は40歳代。 訪問事業所Aより訪問事業所Bのヘルパーが対象者を虐待しているのではないかと通報。 別の訪問事業所Cや対象者の親に事実確認したが不適切な支援は見えていない、聞いていないとのこと。 対象者から事実確認を行ったところ虐待はないと明確に否定。 今後は関係機関と情報共有を図りながら、必要に応じて対応する。
警察	配偶者	身体的	対象者は40歳代。 夫婦喧嘩になり、双方に内出血やひっかき傷あり。相手方が110番通報した。 対象者に精神障害があるものの、喧嘩は一方的ではなくお互いに手を出して軽傷を負っていることから警察では双方とも被害者であり加害者でもあるDV案件となっている。今回は対象者への虐待とまでは認められないが、喧嘩がエスカレートすることや子どもへの心理的虐待につながる可能性もあるため、男女協働・家庭支援室と情報共有し、今後も連携しながら必要に応じて支援していく。
警察	配偶者	身体的	対象者は50歳代。 対象者の妄想から相手方と口論になり、相手方が対象者を足蹴りした。対象者が110番通報。 警察が到着後、怪我を確認するもなし。その場で相手方が謝罪したことで対象者も納得した。 夫婦間の言い争いで突発的に起こったことだが、エスカレートすることも考えられるため、男女協働・家庭支援室へも情報提供し、今後、DV対応が必要となった場合の支援を依頼し、必要に応じて支援していく。
施設職員	家族	身体的	対象者は20歳代。 対象者の目の周りに青い痣があるとの施設職員からの通報。 家族からは自宅で転倒した際に、顔をぶつけてできたとのこと。 今後も、関係機関と情報共有し、見守りを継続していく。

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
家族	家族	身体的	対象者は20歳代。 対象者の身体に痣を見つけ、別の家族が通報。 双方からの事実確認の上、支援機関によるケース会議を行い、対象者の状況確認と支援のあり方を検討。対象者の行動から自傷の可能性も否定できないため、今後も関係機関と連携し、見守りを継続していく。
その他	施設職員	身体的 心理的	対象者は30歳代。 施設職員が対象者に対し不適切な発言をしたとの通報。 対象者を時間通りに準備させるための声かけ・介助の一環であったが、施設内で支援体制の見直し、改善策の提出を求めた。
その他	兄弟姉妹	心理的	対象者は40歳代。 同居の兄弟姉妹が対象者の意思に反し、対象者の行動を制限することは虐待に当たるのではないかと支援機関から相談。 行動の制限については、対象者の発作による転倒や誤飲などの危惧からのもの。 支援計画のもと、モニタリングを重ねた結果、対象者が明確な意思表示を示すことができ、兄弟姉妹も対象者の支援に関しては基本的に対象者の意思を認めるようになった。関係機関と連携し必要なサービス利用の導入及び見守り等、今後も必要に応じて支援していく。
病院職員	病院職員	経済的	対象者は複数。 病院職員による利用者への不適切な金銭管理に対し、経済的虐待の疑いがあると別の病院職員からの通報。 本件は「障害者虐待防止法」に基づかない任意の虐待通報となる。通報内容を聞き取り、虐待事案に対応すべき機関へ引き継ぐこととなることを大阪府に確認。 通報者を通じて事実確認を行ったが、後日、通報者から虐待通報を取り下げるとの連絡があったことから対応すべき機関へ当該通報内容について情報提供を行い、対応を依頼した。

虐待対応状況

●高齢者虐待 29件

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
ケアマネジャー	子	身体的 心理的 ネグレクト	対象者は80歳代・要介護4 子から虐待を受けているのではないかとの通報。 子がイライラして暴力を振るった様子。 再度同様の事案が起きた場合は分離という方法も検討する旨を子へ説明し、今後も定期的に訪問を行う。
ケアマネジャー	子	ネグレクト 経済的	対象者は90歳・要介護2。 対象者が不衛生な環境にあるとの通報。 子は必要な介護サービスについて一旦同意をしたが、その後の利用に繋がっていなかった。訪問支援を継続し、子の思いの把握に努め、関係機関と連携しながら別のアプローチを検討していったが、対象者の病状悪化により入院となる。
介護サービス事業者	子	経済的	対象者は80歳代・要介護5。 子に対象者の年金を管理しているが施設利用料を支払っていないため、このままでは施設にて必要な介護サービスを受けられなくなるとの通報。 対象者本人と面接し、介護サービスの停止に備えて、市では措置を実施し、成年後見人の申立を行った。
介護サービス事業者	子	身体的 心理的	対象は70歳代・要介護認定なし。 対象者と子が言い争い、子が暴力を振るう様子をヘルパーが目撃したとの通報。 対象者が支援を拒否しているため、子の支援について、関係機関と連携しながらアプローチ方法を検討していく。
介護サービス事業者	子	ネグレクト 経済的	対象者は70歳代・要介護3。 対象者の体調不良が断続的にみられるので、対象者の身体状況や受診の必要性を伝えるため、子に連絡が取れないとの通報。 今後子と連絡が取れない場合、包括職員と市保健師で子に連絡を取る予定。

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
ケアマネジャー	子	身体的 心理的	対象者は90歳代・要介護1。 子の配偶者より、本人の顔が発赤していたため、子が対象者を殴ったのかもしれないとの通報。 対象者は認知症状があり、子の介護疲労は大きくなっていった。 介護負担軽減のため定期的に施設を利用している。
その他	施設職員	身体的	対象者は90歳代・要介護4。 介護職員が内出血痕を発見したとの通報。 施設側の調査結果と今後の対応としては、不適切な離床介助が事故の原因。当該介護職員に研修を実施し、その間の勤務体制を変更し、移乗介助、トイレ誘導等の2人介助を徹底していく。
医療機関	子	経済的	対象者は80歳代・要介護4。 病院の入院費を滞納しており、子が本人の年金で生活しているとの通報。 子と面談し、滞納金や成年後見について説明し、子の経済面の相談に応じた。
医療機関	子	ネグレクト	対象者は80歳代・要介護認定なし。 救急搬送された病院から緊急入院した対象者がネグレクトの疑いがあるとの通報。 子たちより、本人の強い受診拒否により現状まで受診できず。 在宅介護が困難であるため、入院治療となる。
介護サービス事業者	配偶者	身体的	対象者は70歳代・要介護認定なし。 配偶者が対象者に暴力を振るうところを目撃し、対象者の腕に内出血痕を確認したとの通報。 介護サービスを利用できるようにサポートし、在宅生活を支援している。

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
警察	配偶者	心理的	対象者は70歳代・要介護認定なし。 対象者が配偶者から暴力を受けているとの通報。 対象者および配偶者の安全のため、分離して生活することをすすめた。 その後、配偶者は転居し、別々に生活をするようになった。
警察	配偶者	身体的	対象者は60歳代・要介護認定なし。 配偶者のストレスが募り、対象者に暴力を振るったとの通報。 配偶者は以前より対象者からDVを受けていた。 対象者および配偶者の安全のため、分離して生活することをすすめた。 その後、配偶者は転居し、別々に生活をするようになった。
警察	配偶者	身体的	対象者は80歳代・要介護認定なし。 配偶者と口論となり、対象者暴れたため、制止するために配偶者が暴力を振るったとの通報。 配偶者は介護疲れのためイライラしていた様子。 配偶者の介護疲れの軽減のため、デイサービスを利用し、対象者の精神状態のコントロールのため、施設へ入所することも考慮しながら支援する。
本人	子	身体的 経済的 心理的	対象者は80歳代・要介護認定なし。 同居の子とけんかし、家を出てきたが、子が対象者の年金で生活しており、所持金がほとんどない、子から暴力を受けているという相談。 身体状況を確認したが、打撲痕などなし。 対象者は子と離れて暮らすことを望んでいるため、介護保険を申請し、サービスを利用して施設入所となる。
家族	子	身体的 心理的	対象者は90歳代・要介護認定なし。 同居の子は対象者の介護疲れがあり、対象者に対して手が出してしまったことがあるとの発言があったとの通報。 身体状況を確認したが、打撲痕などなし。 介護保険サービス利用による、子の介護負担の軽減を図っていく。

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
本人	配偶者	ネグレクト 心理的	対象者は70歳代・要介護3。 対象者の認知症が進行し、配偶者の制止を理解せず、外出を繰り返したため配偶者が対象者を閉め出したという通報。 対象者は緊急ショートステイを利用し、その後、施設へ入所した。
その他	配偶者	身体的 心理的	対象者は70歳代・要介護認定なし。 腹を立てた配偶者から暴力を振るわれたとの通報。 対象者は支援を希望せず、他の家庭の問題が解決しなければ、自分のことについて考えられないと。 地域包括支援センター職員が民生委員児童委員から情報収集し、対象者には男女協働参画ルームの相談支援を紹介。
その他	配偶者	身体的 心理的	対象者は70歳代・要介護認定なし。 配偶者が対象者に対して暴言や暴力をふるう状況が継続しているとの通報。 対象者に内出血痕を確認。 暴言や暴力等があれば、対象者から110番通報してもらい、暴力が続くようであれば、配偶者の入院も視野に入れた対応を助言。
その他	子	身体的 経済的 心理的	対象者は70歳・要介護認定なし。 同居の子が対象者に暴言や暴力を振るうとの通報。 暴力の詳細について確認し、痣を確認。 対象者は積極的な支援を希望せず。 子の支援方針について、関係機関と連携できることを伝える。
その他	子	身体的 ネグレクト	対象者は80歳代・要介護4。 「子に殴られた。」「家に帰りたくない。」という訴えがあったとの通報。 数ヶ月前も内出血があり、今回も内出血痕あり。 本人は認知症があり、意思疎通のとれる時とそうでない時がある。 入所含め対象者の介護保険サービス内容について子と話し合う。

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
その他	施設職員	身体的 心理的	対象者は70歳代・要介護4。 施設職員が侮辱的な発言を行い、臀部を平手打ちした事実を確認したとの通報。併せて、同施設では当該職員に事実確認の上、服務規律違反による懲戒解雇としたとの報告。 指定権者である大阪府に連絡し、徹底した調査・指導を行うことで方針確認した。
その他	施設職員	心理的	対象者は70歳代・要介護1。 デイサービス事業所の管理者の対象者へ対する言葉かけが虐待にあたるのではないかと相談。 初回協議での検討の結果、心理的虐待の疑いとして今後の対応方針を検討中に対象事業所が事業廃止となった。
その他	配偶者	身体的	対象者は60歳代・要介護認定なし。 配偶者からの暴力が有り、ベランダに出され鍵を閉められたとの通報。 子宅へ避難し、配偶者からの暴言・暴力がなくなった。 対象者へ身の危険を感じたら躊躇せず警察に連絡すること、相談窓口を案内し、困ったことがあればいつでも連絡することを伝えた。
その他	子	身体的 心理的 経済的	対象者70歳代・要介護認定なし。 携帯電話を子に取り上げられ、暴力を受けたとの通報。 経済的にも子に追い込まれている様子。 子の疾患の治療のため、入院支援を実施する。
その他	子	身体的	対象者は60歳代・要介護認定なし。 対象者が子と口論になり、暴力を振るわれたとの通報。 対象者夫婦は直近で転居。子については警察での見守りを継続していく。

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
医療機関	子	経済的	対象者は90歳代・要介護認定なし。 子夫婦と折り合いが悪く、対象者の金銭を全て子が管理しているため困っているとの通報。 包括職員が子と電話で状況について話し、対象者の訴えと通報内容が異なっており、金銭管理が必要な状況であった。 初回協議にて虐待なしと判断した。
匿名	施設職員	身体的 心理的	市のホームページのご意見箱に、デイサービス事業所にて、利用者への身体的虐待や心理的虐待の疑いがあるとの通報。 全職員への聞き取り調査を行うことで方針確認。 事実確認をふまえた検討の結果、虐待案件ではないと判断した。
警察	配偶者	身体的 心理的	対象者は70歳代・要介護認定なし。 対象者が配偶者から暴言・暴力を受けているとの通報。 配偶者は精神疾患を患っており、日常的に暴言を吐くことがある。 配偶者の治療に関して対象者とその子に助言し、配偶者の主治医に相談する機会をもった。
介護サービス事業者	配偶者	経済的	対象者は80歳代・要介護2。 施設利用料を滞納しており、配偶者が対象者の年金で生活しているとの通報。 対象者に成年後見制度の利用を促す。 施設から配偶者への支払いの催促をし、関係機関が配偶者に対して経済面の支援を継続的に行う。